

私は、平成30年という平成最後の年が、明治維新から150年を迎えると知って、このタイミングが作られたものか、仕組まれたものか、偶然なのか、とても感慨深い年だと感じます。

明治維新というと、小学校、中学校の授業でも社会科の授業で習っているので、だいたい人は知っていると思いますが、明治維新は全く違う日本に変えた、日本の歴史の中で最大の出来事だったと思います。

明治維新後の日本は、海外からの技術や社会のルールなどを取り入れたために、急速に近代化に向かっています。江戸幕府が政治を行っていたころには鎖国政策のせいで新しい文化を取り入れることは少なく、元禄文化や化政文化など独自の文化は花開くものの、ちょんまげや、刀の帯刀、士農工商の身分制度など、江戸時代約250年にわたって、基本的に大きく変化したとみられないイメージですが、明治維新の後には、鉄道が通ったり、ガス灯が設置されたり、服装は洋服でちょんまげはなくなるなど、日本中すべてが一気に変わったわけではないでしょうが、昔の錦絵などを見ると江戸時代の様子とは全く違ったものになっています。

また、歴史的に見て、時代が変わるときには、日本中を巻き込むような戦争が必ずと言っていいほど行われていますが、源平合戦や戦国時代などは武力によって相手を倒して統一するということに比べ、幕末は、いくつかの対立戦争があったものの、先の未来を考えて意見をぶつけ合い、最後は平和的に政権が変わってきたところが違うと思います。

では、誰の力で世の中をこれだけ変えることができたと考えますと、西郷隆盛や大久保利通などの幕末の英雄と呼ばれる人達が日本の未来を考え、たくさんの努力によって新しいものを取り入れてきたからだと思います。

そのような中で、水戸はというと、大政奉還を行った十五代将軍徳川慶喜が水戸藩の出身であったことや、水戸藩の中で分裂したり、桜田門外の変や天狗党の乱など、決して良いイメージで思われていないような気がします。例えば、私の持っているマンガの中でも徳川斉昭は、残念ながら専横的で良い表現はありません。

しかし、伊藤博文や山県有朋などを教えた吉田松陰は尊王攘夷論を記した「新論」の著者の会沢正志斎を訪ねており、また、西郷隆盛も藤田東湖に教を乞うなど、明治維新に大きな影響を与えたといわれる人が水戸藩の思想をわざわざ聞きに来ており、新しい考えをもって世の中をリードしてきたのではないのでしょうか。桜田門外の変や天狗党の乱なども、今のままではいけない、新しい国を作らなければいけないと思いが形となって現れた結果なのではないかと思います。そうです、明治維新の英雄は水戸の思想を勉強して、明治維新を成し遂げてきたのではないのでしょうか。

また、徳川斉昭についても、勉強の大切さから「弘道館」をつくり、当時アジアを侵略していた外国から守るため大砲や戦車をつくるなど、御三家という立場にもかかわらず幕府とは対立があったようですが、日本をどのようにしていくべきかを真剣に考えていろいろなことを行っただろうと思います。ですから、幕末の英雄は水戸に来たのだらうし、息子である十五代将軍の徳川慶喜も外国に攻め入れられないよう戦争をせずに平和な方法として大政奉還をしたのだと思います。

水戸には、偕楽園や弘道館だけでなく、常磐共有墓地には藤田東湖や桜田門外の変の現地の指揮をした関鉄之介、水戸殉難志達の墓、市内のいろいろな場所には徳川斉昭や藤田東湖、会沢正志斎の銅像があるなど、水戸黄門徳川光圀よりも幕末のスポットの方が多いことに気がつきました。これは、現代から時代が近いということもあるのかと思いますが、幕末が終わり、明治・大正・昭和・平成と150年の間、史跡を守ってきたり、先人の銅像を建てて敬ったりと、水戸の人たちが大切にしているからだと思います。また、これから水戸城の大手門の復元が計画されているということで、ますます歴史を感じることできる街になると思います。私は、明治維新につなげてきた、この街で生まれたことを誇りに持って、新しいことや積極的な行動をしていきたいと思いました。そして、もっと、水戸の街を好きになりたいと思います。